

明日を拓く 輝く「ふじの人」づくり

～令和7年度全国学力・学習状況調査「家庭用リーフレット」～

富士市教育委員会

4月に全国学力・学習状況調査が行われ、実生活を想定した問題が多く出題されました。学校で学んでいることを日常の経験と結びつけて考える力や、自分の考えを相手や状況に応じて伝える力が問われました。本リーフレットに、富士市の子どもたちのよいところや今後の課題などをまとめました。

令和7年度の中学校国語の調査問題より

【「マリープロジェクト」をもとにしたアイディアについてのスピーチ】

村田さんは、青木さんとあなたにスピーチの助言を求めています。【村田さんのスピーチ】と＜スライド①＞から、＜スライド⑤＞までを読んで、あとの問いに答えなさい。

- 2 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイディアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルを見てもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、＜スライド①＞から＜スライド⑤＞までを読んで、あとの問いに答えなさい。

【村田さんのスピーチ】

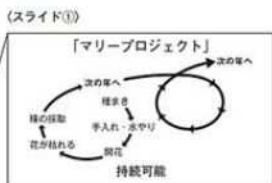
私は、「マリープロジェクト」をもとにしたアイディアを考えました。
「マリープロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募って行っている、マリーゴールドを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、きれいに咲いたマリーゴールドの花に、心が和んだこともあるのではないのでしょうか。マリーゴールドは、苗から育てることが多いのですが、この活動では、採取した種から育てています。

ここで、＜スライド①＞を提示

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を蒔くだけでなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

ここで、＜スライド②＞を提示

これは、実際に採取したマリーゴールドの種です。次のシーズンに学校で育てる分を確保したあと、家でも育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、



(中略)

学校では、何のために、誰を対象に、どのような状況で話すのかを具体的に考え、設定した話題や検討した内容が、それらに適しているかどうかを判断したり、振り返ったりする場を設定しています。特に、スピーチやプレゼンテーションでは、聞き手の話の受け止め方や理解の状況に応じて表現及び構成を練ること、資料やICT等の機器を活用して自分の考えを分かりやすく伝えるよう工夫することを指導しています。

(問題の正答 2)

問1

村田さんは、【村田さんのスピーチ】の一線部⑦「スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。」のように、スライドを使って話しています。このときの村田さんの話し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

選択肢

- 1 聞き手の印象に残るように、スライドで意見だけを要約して示しながら、意見とそれを支える根拠を話している。
- 2 聞き手によって経験が違うことを考慮して、スライドで補足の情報を示しながら、話の要点を絞って話している。
- 3 聞き手が興味をもつように、スライドで異なる視点からの情報を示しながら、自分の主張を繰り返し話している。
- 4 聞き手からの質問を想定して、スライドで質問に対する回答を示しながら、自分の立場と考えを話している。

調査問題はここから

(国立教育研究所HP)

https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_chuu_kokugo.pdf



本調査の結果をふまえ、学校でも「相手に分かりやすく目的をもって伝える力」や「人の話を受けとめる力」を育む指導を続けていきます。また、学習を楽しく充実するものとしてメディアやICTを効果的に活用する方法を考えていきます。

ご家庭では、本物の体験を通して様々な経験を重ねることや、「どうしてそう思ったの」等と関心をもって聞いたり聞き返したりすることで、お子様が自分の考えを表現できるよう親子での対話を大切にいただけたら幸いです。

教科に関する調査結果 (平均正答率)

小学校6年生

平均正答率(%)

	富士市	静岡県	全国
国 語	64	66	66.8
算 数	55	57	58.0
理 科	54	55	57.1

※本調査により判定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一部分です。

中学校3年生

※理科は平均IRTスコア 平均正答率(%)

	富士市	静岡県	全国
国 語	55	56	54.3
数 学	48	51	48.3
理 科	520	527	503

児童・生徒質問紙調査から見られる傾向

富士市の子どもたちは、思いやりがあり、人との関わりを大切にできる傾向にあることがうかがえます。また、学級をよりよくするためにみんなで話し合ったり、友達と協力したりして、課題を解決しようとする子どもたちが多くいます。今後も、子どもたちの豊かな心を育む教育を進めていきます。 ※（ ）は全国平均

◆人が困っていたら進んで助ける

小6 93.4% (93.7)

中3 91.0% (90.9)

◆人の役に立つ人間になりたい

小6 95.9% (96.4)

中3 96.6% (96.6)

◆学級生活をよりよくするために話し合う

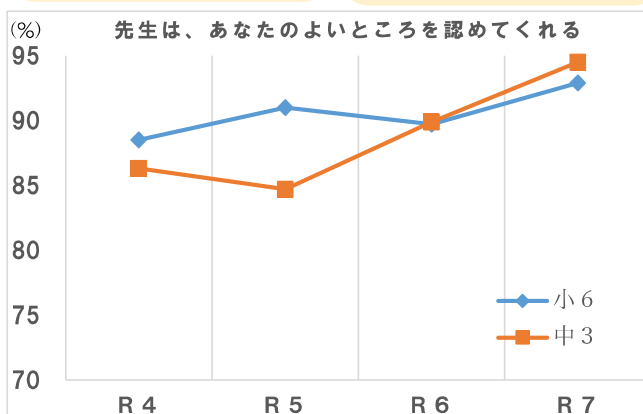
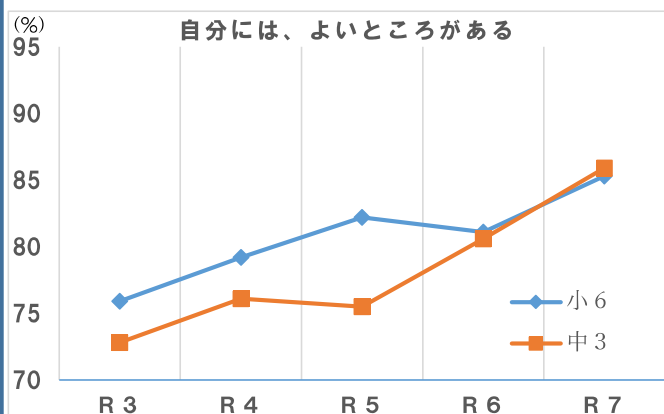
小6 86.0% (83.3)

中3 88.6% (84.3)

◆学級で友達と協力して課題を解決している

小6 86.0% (83.3)

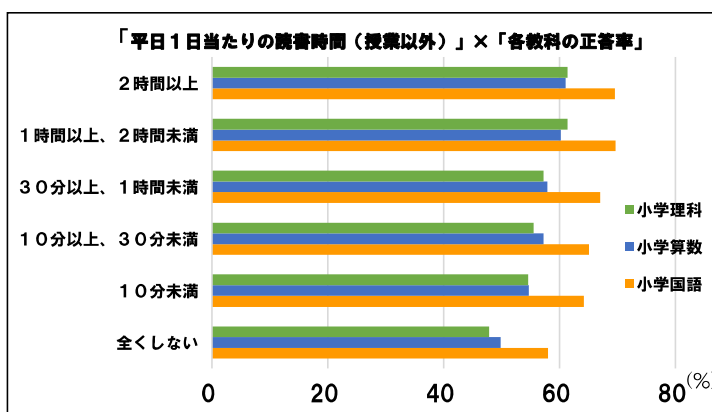
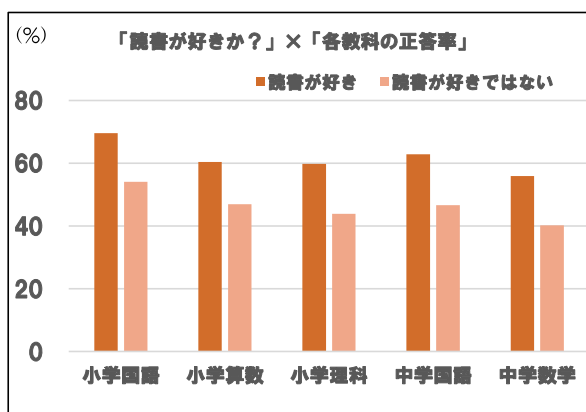
中3 88.6% (84.3)



「自分には、よいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」と感じている子どもたちの割合が増加傾向にあります。これは、学校だけでなく、家庭や地域でも、家族や地域の一員として一人一人が大切にされ、活躍の場が用意されている成果であると考えています。この自己肯定感、学習への意欲や失敗しても立ち上がる力等を支えます。今後も、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの存在を認め、励ます場面を増やしていくことで、子どもたちの自己肯定感や自信が、より高まっていきます。

「教科に関する調査」と「児童・生徒質問紙調査」から見られる傾向

児童・生徒質問紙調査の回答と平均正答率の関係を調べると、読書が好きな児童生徒は、平均正答率が高い傾向にあります。



本を読むことで、幅広い知識が得られ、読解力や想像力などが高まると言われています。近年、子どもたちが、インターネットやSNS等、多様なメディアを使用する時間が増えていますが、読書や体験活動などを通して育まれる力も再確認しながら、メディアとの付き合い方について家庭で話し合ってみましょう。

家庭や地域での働き掛けが、子どもたちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。
学校・家庭・地域が一体となって、子どもの成長を支えていきましょう。

全国学力・学習状況調査のCBT化について

コンピュータで解答する調査が始まっています

「中学校理科」の調査では、生徒が使用する ICT 端末等を活用し、オンラインでテストを受ける「CBT 方式（※1）」が導入されました。CBT 方式では、IRT（※2）が採用され、生徒 1 人当たり公開問題 10 問と非公開問題 16 問が出題されています。公開問題には全日程に共通する問題 6 問と、実施日により異なる問題 4 問があり、非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題が出題されています。

令和 7 年度調査「中学校理科」の問題の構成

問題構成について

- 生徒 1 人あたり、公開問題 10 問と非公開問題 16 問を出題しています。
- 公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題があります。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いています。



※1 CBT (Computer Based Testing): コンピュータ使用型調査

※2 IRT (Item Response Theory): 項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるものなのか、児童生徒の学力によるものなのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

解答の分析方法が変わります

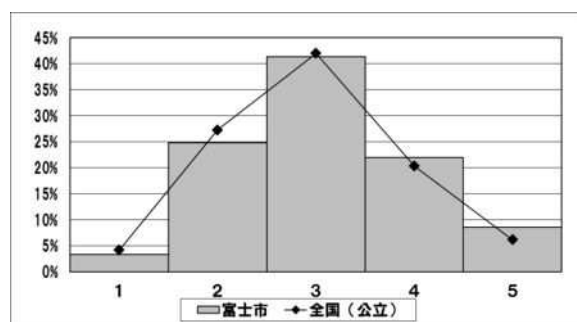
IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すものを「IRT スコア」、IRT スコアを 1 ～ 5 の 5 段階に区切ったものが「IRT バンド」として表されます。

「中学校理科」の IRT スコア

	平均 IRT スコア
富士市	520
全国（公立）	503

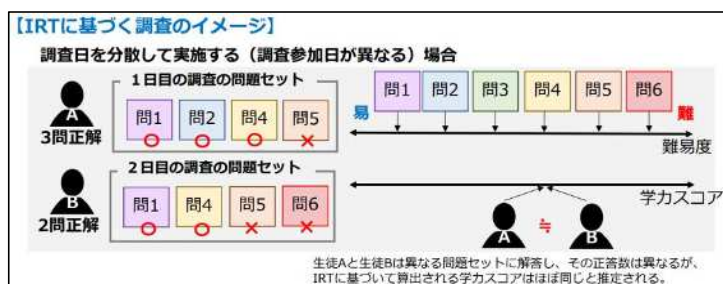
IRT バンドに占める生徒の割合（％）

IRT バンド	1	2	3	4	5
富士市	3.3	24.8	41.3	22.0	8.6
全国（公立）	4.2	27.3	42.0	20.3	6.2



IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）

IRT スコア及び IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。



公開問題例

火を使う実験の場面を動画で視聴し、問題に解答する。



ドライアイス（二酸化炭素）の中で、マグネシウムは燃焼するでしょうか。動画を見て、図を参考にしてその結果を考察しましょう。



動画



図



二酸化炭素の中では、火は消えると思いましたが、燃焼しました。何が起きているか、化学変化をモデルで表しました。

令和8年度は「中学校英語」及び「児童生徒質問調査」、令和9年度以降は全ての調査がCBT方式により実施予定となっています。引き続き、ICT端末等を活用し、映像や音声、図形操作等、多様な学び方を意識した授業を行っていきます。

なお、市内の小中学校では、ICT支援員によるコンピュータなどのICT機器の活用に関して十分なサポート体制を取っております。

調査問題はここから（国立教育政策研究所HP）

https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_chuu_rika.pdf

